

授業概要

「アジアの思想と社会」がテーマです。いわゆる「通史」という形ではなく、幾つかのトピックを取り上げる形でアジアの思想を概観し、世界に価値観の違いが生じる理由を考えます。過去の制度や思考法は、現代に至るまでの間に失われたのか、残存しているのかを考えることを糸口に、歴史を踏まえた現代社会の再検討を、各テーマごとに試みるよう講義します。その時、その地域を生きていた人々が、どのような感情を抱き、どのようなことを考えたのかを、当時の人たちの視点から考えてみて欲しいと思います。

授業計画

第 1 回	環境と古代文明：黄河流域を例に
第 2 回	思想の源流①：文明へのあゆみ
第 3 回	思想の源流②：新石器時代の「野生の思考」
第 4 回	思想の源流③：文字と記録の誕生
第 5 回	思想の源流④：神による政治
第 6 回	思想の源流⑤：神の政治から人の政治へ
第 7 回	死生観と宗教①：仏教の死生観
第 8 回	死生観と宗教②：イスラームの死生観
第 9 回	死生観と宗教③：儒教の死生観
第 10 回	死生観と宗教④：東北アジアでの仏教の変容
第 11 回	道徳と社会①：儒教道徳と喪礼
第 12 回	道徳と社会②：宗族と住居
第 13 回	道徳と社会③：「公」と「私」
第 14 回	道徳と社会④：科挙と官僚
第 15 回	社会における「責務」と「救済」：統制の手段と構造
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・非合理的、非論理的にも映る、自分たちが暮らす現代日本とは異なる文化、習慣、宗教、政治体制の下での暮らしが、その時代や地域を生きる人々にとっては合理的かつ論理的である可能性を考えることができる。
- ・現代日本における権威やルール、或いは社会通念上の「正しい」「常識」「普通」を異なる価値観から見つめ直し、疑うことができる。

履修上の注意

受講条件は特にありませんが、今年度の「東洋史概説」を併せて履修することが望ましいです（昨年度までの「東洋史概説」との関連はありません）。東洋史に限らず歴史一般、歴史に限らず現代中国等に興味・関心のある学生の受講も歓迎します。また、高校までの歴史教科書の基礎知識も求めません。歴史上の出来事や人物、歴史用語や年代を暗記する必要はありませんし、それらをおぼえることも重視しません。

予習・復習

読書・インターネットの閲覧・テレビ番組の視聴などを通じ、講義内容から生じた興味関心を深める（授業 1 回あたり合計 4 時間程度）、或いはそれに相当する時間を試験勉強やレポート作成にあてるのが、単位取得の目安となります。

評価方法

平常点 60 点、期末課題（試験）40 点で評価します。平常点は、毎回提出してもらいうりアクションペーパーの内容により評価します。

テキスト

講義で配布するプリントをテキストとします。参考文献は講義の中で紹介します。